

森を見る力

インターネット以後の社会を生きる

インターネットは社会を便利で快適なものに変えたが、一方で人間の生命力を弱めていないか。「木を見て森を見ず」の言葉どおり、わたしたちは細部にこだわるあまり、全体を見通す目を失ってはいないか。ネットがあたりまえのものになり、データが氾濫する時代には、データではなく「森」を見よ！数々の企業、商品開発、広告戦略、メディア、教育行政の現場に携わってきた著者が描く、あたらしい情報社会の見取り図。

橘川幸夫

定 価：1890 円
単行本：320 ページ
出版社：晶文社
ISBN-13：978-4794968388
発売日：2014/1/21



晶文社



Amazonにて
購入出来ます。

書評

この「森を見る力」に貫かれている精神は、社会を俯瞰して見るだけでなく、愛おしくもあり、哀れでもあり、憐れもあり、切ない人間に対する賛歌である。

熊野英介（アマタグループ代表、
公益財団法人信託資本財団理事長）

林雄二郎の身近にいたものとして、この二人に共通する「捉われな自由さ」ゆえに、時々私は橘川さんと話していると「父と話している」気にさせられることがある。林がついに成し得なかった最後のテーマ、「社会的ソフトウェアとは何か」を完成させることを、これからの共通のテーマとして考えているが、本書は、そのスタート地点であるように思われる。

林光（ナレッジ・ファクトリー代表）

本書を通して私達は「橘川幸夫というタイムマシン」を通じて戦後の色んな景色や時代背景を感じながら時空をこえて冒険することができる。冒険を続けていく中、森を見る力が何なのか、言葉にできなくとも何となくそれが体内へと入っていくようである。

宮崎要輔（未来フェス実行委員会）